

生産局長賞

JA三次^{みよし}アンテナショップ生産連絡協議会

～ 県内の都市部での直売事業展開による地域農業の振興・活性化～

代表者： 田村 三千夫
所在地： 広島県三次市

構成員：JA三次管内生産者 1,003名
活動開始年月日： 平成13年9月

表彰理由

70km離れた県内最大の消費地である広島市にアンテナショップやインショップを展開し、農業者の販路拡大及び所得向上につなげた先進的な取組。

管内に11か所の集荷場を設置し、JAが集荷・荷分けして広島市に配送するなど、地域の高齢者や女性農業者が出荷しやすい体制を構築したほか、独自の情報システムにより生産者に詳細な販売情報を発信するとともに、年間17回の交流イベントを実施して積極的に「顔が見え、話ができる」関係を構築するなど、遠方ゆえに農業者が直接消費者に接する機会が少ないという欠点にも対処した優れた取組。

取組内容

1 広島市におけるアンテナショップ・インショップ展開

- 平成13年、三次市(人口6万人)には、すでに直売所が数か所設置されていたことから、地元にも設置しても競合し、農業者の新たな販路拡大にならないと考え、70km遠方の県内最大の消費地である広島市(人口120万人)に、アンテナショップ「双三・三次きん菜館」を設置。
- JA三次管内に11部会から構成される生産連絡協議会を立ち上げ、当初352名の会員からスタート。13年度当初は「双三・三次きん菜館」の年間販売額は15千万円であったが、平成19年には、販売額58千万円、会員数1,003名に拡大。
- 平成14年には、広島市内の量販店にインショップを開設。新鮮な農産物が広島市民の心をつかみ、平成19年までに13店舗に拡大。インショップ全体の販売額は26千万円を超える。
- アンテナショップ、インショップとも、農産物、加工品を含めて100%三次産。加工品を中心に、最初は皆無だった女性会員が、現在では379名、16グループに。

2 地元の高齢者や女性農業者が活躍できる出荷・販売システム

- 生産者は毎日収穫した農産物をJA三次が設置した11か所の集荷場に出荷。JA三次が拠点となる集荷場に集め、納品先の店の特徴を踏まえて荷分けし、1日2回、広島市内に配送。
- POSシステムと連動した独自の情報発信システムにより、生産者は30分おきに更新される販売情報を携帯電話・ファックス・パソコンで取得し、翌日の出荷の目安としている。
- 魅力ある店舗展開のため、少量多品目生産に力を入れ、年間989種類の品目を出荷。生産者が相互に生産指導を行うため、生産アドバイザー制度を設立し11名が活動。
- 年間17回の交流イベントを開催するほか、広島市内の消費者を三次市内に招待するなどして、消費者との交流、相互理解を進め、消費者ニーズの把握などにも努力。